

令和3年12月1日

緑小だより

横浜市立緑小学校

12月号

ふれあい 学びあい みとめあう みどりっ子

mail y3midori@edu.city.yokohama.jp

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/midori>

修学旅行を終えて!!

学校長 能城 順一

令和3年も、はや師走、朝夕の冷え込みも日に日に増し、本格的な冬の到来もまもなくと感じる季節となりました。振り返ってみますと、今年も、新型コロナウイルス感染症拡大の不安が続く中、子どもたちの学びを止めない教育活動をどのように進めていけば良いのかと悩み続けた1年間でありました。そのような1年間ではありましたが、この10月11日は、新型コロナウイルス感染症が私たちの想像を超える収まりを見せた時期となりましたので、1年生～5年生の遠足、そして6年生の修学旅行を無事に実施することができました。有難いことに、どの学年も、実施日は秋らしい素晴らしい天候に恵まれ、すべて予定通りに遠足・修学旅行を終えることができました。保護者の皆様、持ち物やお弁当の準備など、様々な面で安全・安心な校外での学習のためにご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

中でも6年生の修学旅行が実施できたことについては、校長としては感慨深いものがあります。本年度の6年生は、昨年度5年生の時には、全ての校外での学習が中止となった唯一の学年です。私も、何とか6年生の修学旅行だけは実施したいと、昨年度末から何度も計画を練り直してきた経緯もありました。結果、これまでの日光への修学旅行ではなく、県内の箱根を中心とした修学旅行とはなりましたが、素晴らしい秋晴れの空の下、芦ノ湖湖畔から眺める富士山や大涌谷に向かうロープウェイから眺める紅葉等の風景は、正に「絶景」でした。そして、何よりも子どもたちにとって大きな学びとなったのは、同じ6年生の仲間たちと1泊とはいえ「寝食を共に過ごした」経験でしょう。また、私個人の話をする、私は担任時代も含めると30回を超える修学旅行を経験していますが、現在のこの厳しく困難なコロナ禍で、様々な人々にお世話になりながら修学旅行が実施できる有難さを、心から感じた2日間でもありました。6年生の子どもたちの修学旅行の振り返りを、少しだけ紹介させていただきます。読ませてもらった私の心は、とてもあたたかくなりました。

- ・友達という時間の大切さを改めて知りました。楽しいと思えました。
- ・楽しいことは、思いっきり楽しむことが大切と知りました。また、そこまで仲良くなかった友達とも、とても仲良くなったので、修学旅行でたくさんのことを学びました。これからは「たくさん交流すると仲良くなれる」ことを生かしていこうと思います。
- ・おいしい食事やきれいなお風呂を用意してくれて、ありがとうございました。とても良い思い出になったので、またいつか家族でいきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・修学旅行に行って、「ありがとう」の言葉が改めて大事なんだなと思いました。なので、これからは、学校や町の人たちに会った時には「おはようございます」などのいろいろな言葉に感謝の気持ちを込めて、あいさつしていきたいなと思いました。
- ・私は改めて「ありがとう」の大切さを知りました。修学旅行は、去年から何度も計画を練り直して、ようやく実現したので、「ありがとう」だけでは伝わらないこともあると思いました。そこで、やっと「行動で示す」の意味を知りました。これからは、言葉のみならず行動で感謝の気持ちを伝えていこうと思います。
- ・小さなことでも当たり前と思わずに、感謝の気持ちを忘れてはいけないなと思った。部屋にいる時は、最初は仲良くなれるか心配でも、自分から話しかけて仲良くなれるきっかけをつくれれば、意外と仲良くなれるんだなと思った。卒業に向けて、修学旅行で学んだことを生かして、もっといい小学校生活にしていきたい。

最後になりますが、すぐに年末・年始もやってきます。年末・年始は、私たち大人にとっては、大変忙しい時期である上に、このコロナ禍です。新たな変異株の報道も繰り返されています。もちろん、以前のようにとはいかないでしょうが、その中でも保護者の皆様、地域の皆様、何よりも健康に留意されて、ご家族であたたかく穏やかな年末・年始をお過ごしください。年が明け、令和4年となりましても、本校への変わらないご支援を、どうぞよろしく願いいたします。